

特急ワイドビュー南紀の台車軸箱体が ひび割れ！検査体制に問題はないのか

紀勢本線新宮駅構内で1月21日、紀伊勝浦発名古屋行きの特急ワイドビュー南紀4号に運行予定だった車両（キハ85形気動車）の台車軸箱体に大きなヒビ（亀裂）が入っているのを、点検中の運転士が発見するという事象が発生しました。会社は約10cmのヒビが入っていたと発表しましたが、翌日には中部運輸局にヒビは約20cmにわたっていたことを報告し、重大な事故に発展する可能性があったインシデントだと判断されるにいたりしました。

今回は発車前に発見されましたが、紀勢本線では10月にもキハ75形気動車（「快速みえ」などで運行）が制輪子を落失する危険な事象が発生しており車両の検査体制が問われる事態です。会社は、運転士の点検に更に時間を付加するなどの対応をしていますが、直ちに検査周期を見直すなどの根本的な対策を実施するべきです。

本部は、原因究明と対策実施について団体交渉を開催するよう、申第32号で会社に申し入れました。申し入れ項目は、以下の通りです。

1. 発生原因が究明され再発防止策を実施するまで、同型車両による列車運行を見合わせる事。
2. 今回の事象についての全容を時系列で明らかにすること。
3. 会社は、今月15日に点検を行い異常は無かったとしているが、どのような点検を行ったのか明らかにすること。
4. 同型車両の仕業検査・交番検査等の周期・基準を見直すこと。また、インシデントと認定された今事象に鑑み、重大インシデントと認定された34A台車亀裂に関して、新幹線車両の台車検査周期を現行の60万kmから45万kmに、交番検査周期を現行の45日6万kmから30日3万kmにもどすこと。更に全般検査周期延伸をやめること。